

平成29年度第2回御殿場市地域公共交通協議会議事概要

平成29年12月15日開催 13時25分～14時10分

御殿場市役所本庁5階大会議室

※委員16名出席（全18名）

※会長が必要と認めた者 5名

1 開会（全体進行：御殿場市未来プロジェクト課長）

2 会長挨拶

第1回目の協議会で協議を行ったバスの退出の件については継続協議ということで今回2回目の協議とさせていただく。聞くところによると事業者側から大変ありがたい調整案をお示しいただいたと聞いている。その辺も踏まえてみなさんのご理解御協力をお願いしたい。

3 協議事項（進行：会長）

(1) 退出意向の申出路線について……資料1-1、1-2

（説明：事務局）

（質疑等）

会長：三島方面の御殿場線については現在12.5往復で15万人の方が利用している路線。前回までの提案ではこれを1.5往復にしたいという申出があった。これを5往復に復活していただけるという大変ありがたい話を伺ったので、我々としても事業者に一方向的に負担を強いるのは非常に心苦しいところもあるので、行政としてもしっかりとフォローをしていかなければならないというのが正直なところ。今後、運転士の確保支援や財政的な支援や公共交通の利用者を増やす取組（小学生の体験乗車の回数を増やしたり、マイカー通勤の方に月1回バスを利用させていただくなど）を次年度以降行政としても支援していく。

中日向線については5往復あったものが、（一部区間において）0のままということで三島方面に比べると乗降客数が限られてくる中でこれを0でいいのか議論をしてきたが、今日改めて行政として一定の支援を前提に、せめて1往復程度は残してもらえないかというのが率直な意見だが、事業者としてはその辺りはいかがか。

渡辺委員：今会長からご支援という言葉があったので、事業者としても前向きに考えたい。

会長：今事業者のほうから小山方面、特に高根、栢ノ木を通る路線については行政としての支援を前提に1往復対応するよう考えてくださるという回答をいただいたので、この辺を含めてみなさんのご意見を伺いたいがいかがか。

鎌野委員：上野線の関係する方がいないので、非常に責任が重いと感じている。何も無くなるよりは残していただけるということだが、今の段階で減っても将来必要になったときに増えるとか、また何か別のかたちで利用できるようなものはあるのか。1往復のみとなってしまうのが心配である。気持ちとしては地図で見れば（旧246まで）近いが、歩いてみると結構な距離がある。お年寄りだと乗れないのではないかと思う。仕方ない部分はあるかと思うが、できたらどうせ同じ上野へ行くのであればこのまま残してもらいたいというのが地元としては持っている。

会長：この後事業者のほうで地区のほうに説明に行き、地区のみなさんの意見を聞くことになるかと思うが、最終的には県のほうの協議会が決定することになるので、本協議会としては今回の案についてどういう意見を出すのか。やむを得ないのか、3回目の協議会を開いてさらに議論していただくのかということになるのだが、富士急行のやってきた努力を勘案して、今回の修正案については協議会としてはやむを得ないのではないか。また今後の乗車率の推移を検証する必要があるし、どれだけの影響があったのかについても検証しながら今後必要などころについては再度見直しを図っていただくということで、今回の修正案で県に送付させていただくということによるしいか。

（異議なし）

（質疑終了）

（2）平成30年度御殿場市生活交通確保計画（案）について……資料2-1、2-2

（説明：事務局）

（質疑なし）

この内容で県に送付することになった。

（3）地域間幹線系統評価基準に基づく協議について……資料3-1、3-2

（説明：静岡県地域交通課 地域間幹線系統評価基準について（資料3-1）

事務局 地域間幹線系統市町取組シートについて（資料3-2）

（質疑等）

小泉委員：連携のところで先ほどの話で富士急行さんから前回の話から変わって良い提案をいただいて1.5が5になったということで良かったと思っているが、説明にもあったが、御殿場と裾野と三島をつなぐ線を考えるとそれぞれの市町が違うところで重なっていく状況を考えてと広域の系統の退出という中でこういう会議を含めて汎用されている状況のなかで富士急行さんも考えてくれたのかなと思う。

経営は経営として富士急行にあると思うが、例えば1年なら1年やってみてまたそれを検証した中で結果としてまた次年度に同じ問題が出てくる

のか確認したい。

渡辺委員：もちろん当面の間5.0回ということでやらせていただくのだが、やはり現状なぜ1.5回ということになったのかそもそもの原因としてはお客様がご利用されていないというところがある。年間15万人利用されているということでそれだけ見ると非常に利用されているように見えるが、いかんせん長い距離を走る割に乗るお客様は短い距離の利用しかなかったため、その結果赤字ということになっているという回答になっている。今回5回残すということをやったなかで次年度にそういった問題が出てくる可能性はある。お客様の利用の実態を調査しながらこれから我々と市のほうとお話しをさせていただいたなかで検討が出てくることはあるかと思うが、我々としても利用していただくような施策を考えていかなければならないと思っている。

芹澤委員：県の方からも話しがあつたが、この問題は御殿場市だけでなく、全国的にバスの利用者が減っているというのは問題かと思う。観光に来るお客様も主要な路線についてはむしろ増えていてかなり使われている。ただ、やはりあまり利用がない路線はどんどん減る傾向があるという部分においては富士急行さんも民間なので赤字をそのまま続けていくというのは無理だと思うので定期的にこういう問題は出てくると思う。今日のように市は調整しなければならず、事業者と市民との板挟みにあつて市は大変だなと思うのだが、こういう会議も大切だが、他の成功事例等を見ながら研究をしていく必要があるのではないかと思う。

小坂委員：まず、富士急行さんは赤字を出しながらもバス路線を維持していただけるということで感謝申し上げます。御殿場署管内だけでも高齢者の関係する交通事故というのが後を絶たない。どうしても高齢の方でも運転免許があれば運転をしているわけだが、これが公共交通機関が削減されるとさらに事故が懸念される。この傾向は今後ますます深刻化するものと考えている。事業者が採算性を求めるのは当たり前の話であつて、このままいくと路線バスはどんどん縮小していくことになるので、そうなると県や市全体で公共交通を確保する施策を検討する必要があると思った。

会長：いろいろご意見が出たが、今回は富士急行さんに大変な企業努力をしていただいて、今回地域の気持ちをくみ取っていただいたことに感謝している。ただ、それに甘んじているといずれどんどん縮小してしまう、これは社会の趨勢なので、致し方ない部分もあるが、ただ、そういうなかで事故を防ぐということだけでなく、環境の負荷を低減するであるとか、子どもたちに学習する機会としてバスの体験乗車等をするだけでも相当な金額になる。いろいろな取組がこれから考えられると思う。運転士の募集についても市

もバックアップしていく。バスが廃止されてしまって一番困るのは高齢者というなかで、免許を返納してくださいという施策もあるなかでそういった方々が特に病院や買い物に行くのに支障がないように現在タクシーバス助成券を少額ではあるものの交付させていただいているなかでそれだけではなく、スーパーや病院からのバスへの支援の拡充していくということで、先般県からコミュニティバスという話もあったが、聞くところによると行政で行うコミュニティバスというものは空気を運んでいるものが非常に多いと聞くので、違った手法で市としてもこの問題には取り組んでいきたい。

(質疑終了)

(原案のまま県に提出することで承認された)

4 その他

特になし

5 閉会